

妊婦の母性意識に関与する因子について

聖路加国際病院

松岡 恵 (Megumi Matsuoka)

国立公衆衛生院

新道 幸恵 (Sachie Shindoh)

聖路加看護大学

高木 廣文 (Hirofumi Takagi)

東海大学病院

稲尾 公子 (Kimiko Inao)

東海大学医学部

藤井 明和 (Akikazu Fujii)

妊婦の母性意識に関与する因子について

聖路加国際病院

松岡 恵 (Megumi Matsuoka)

国立公衆衛生院

新道 幸恵 (Sachie Shindoh)

聖路加看護大学

高木 廣文 (Hirofumi Takagi)

東海大学病院

稲尾 公子 (Kimiko Inao)

東海大学医学部

藤井 明和 (Akikazu Fujii)

I 要 約

結婚平均年数2.2年、平均妊娠週数32週である初産の妊婦236名の母性意識に関する調査により、以下のような母性意識に関与する因子を抽出し、対象特性による差を示すことができた。

1) 母性意識に肯定的に関与する因子

第1因子：妊娠の受容因子

第3因子：夫への愛着因子

第4因子：夫の支援因子

第7因子：友人の支援因子

第8因子：伝統的な女性役割の受容因子

第9因子：母性行動因子

2) 母性意識に否定的に関与する因子

第2因子：分娩に対する不安因子

第5因子：未熟な性格因子

第6因子：憶病な性格因子

3) 妊婦の学歴の上昇とともに第3因子(夫への愛着因子)の因子得点は低くなるが、第8因子(伝統的な女性役割の受容因子)の因子得点は高くなり、有意差が認められた。

4) 職業を持っている妊婦は、職業を持っていない妊婦より、第6因子(憶病な性格因子)第9因子(母性行動因子)の因子得点が低く、有意差が認められた。

5) 夫の職業が専門職、管理職の妊婦は、第1因

子(妊娠の受容因子)、第3因子(夫への愛着因子)の因子得点が高く、有意差が認められた。

II 緒 言

子供の成長、発達の上で母親の役割は大変重要なものである。そして、母親が、その役割を行なう基盤となる母性意識¹⁾、すなわち女性が子供に対して持つ特殊な意識は、女性の幼少時からの生育過程において形成され、妊娠、出産、育児体験を通して発達するといわれている。そこで我々は、母性意識に関与する因子についての調査を、成熟期未婚女性、妊婦、産褥早期、産褥一ヶ月の褥婦を対象に実施してきた。そのうち、成熟期未婚女性、産褥早期の褥婦を対象にした調査結果は既に報告した。今回は、妊婦を対象に行なった母性意識調査の結果を報告する。

III 研究方法

対象は東海大学病院(以下A病院と記す)、聖路加国際病院(以下B病院と記す)で妊婦健診を受けた妊娠20週以降の初産の妊婦236名である。

調査は質問紙を用いて行なった。質問紙は、子供への関心、夫や自分の母親への愛着、妊娠に対する感想、分娩を迎える感想、自己感、母親との関わりを主とした生育歴等に関する53項目から成り、各項目について「はい」「どちらでもない」「いいえ」の回答から一つだけ選択させた。

分析方法は、各項目の回答の傾向を調べるために

単純集計を行い、さらに因子分析（バリマックス法）により、母性意識に関する因子を抽出し、各因子得点の対象特性による差を検討した。主要な計算は、東京大学大型計算機センターのHITAC-M280Hを用い、統計処理は主にSPSSを用いた。

なお、愛着（アタッチメント）とは、ここでは²⁾「ある人間と特定の人間との間の二方向の感情に基づいて形成される、ある人間の他の人間に対する愛情」という意味で用いている。

また、妊娠の受容とは、上田ら³⁾が述べているように、妊娠に対して嬉しい、喜びと考えるなど、妊娠を肯定的にとらえている場合を妊娠を受容しているとみなしたことを参考にして、ここでは、「妊娠していることを嬉しく、喜ばしいこととして受けとめていること。」とした。

母性行動（Mothering）という言葉について、ルーディングトン・ホー⁴⁾によれば、母親の役割の中で、身体上の世話を意味し、例えば授乳をしたり、おむつ交換をしたり、沐浴やげっぷをさせたりすることなどとされ、また、花沢⁵⁾は、「母親の子どもに対する養育行動をいい、わが子の養育にかかわる母親の行動のすべて」と述べている。本研究では、単なる身体上の世話のみでなく、「母親としての自分の役割にわずらわしいなどの否定的な感情を持たず、積極的に子供の世話を行なうこと」を母性行動と定義づけた。

伝統的な女性役割の受容について、ミル⁶⁾は、女性が結婚する場合は、家政・家事・育児を第一の義務として選んだことになり、他の家政・家事・育児と両立しない目標や就業をすべて断念したことになると述べており、ミード⁷⁾もまた、結婚に際して女は必ず、家事をするというきまった代償をはらうと述べている。これらのことから、我々は、伝統的な女性役割の受容とは、「自分が女であることを認め、伝統的に女性の役割とされている、結婚して家事・育児に専念することを積極的に受けとめていること」とした。

IV 成 績

1) 対象の背景

調査対象は、A病院89名、B病院147名であり、妊婦の結婚年数は平均2.2年、妊娠週数は平均32週

表1. 対象特性－結婚年齢

	－1年	1－2年	2－3年	3－4年	4－5年	5年以上
A病院	46(52.9)	19(21.8)	8(9.2)	5(5.7)	3(3.4)	6(7.0)
B病院	64(46.0)	36(25.9)	18(12.9)	8(5.8)	4(2.9)	9(6.4)
合 計	110(48.7)	55(24.3)	26(11.5)	13(5.8)	7(3.1)	15(6.6)

表2. 対象の背景－妊娠週数

妊娠週数	20－24	25－29	30－34	35－39	40－
A病院	14(15.6)	26(29.3)	26(29.2)	22(24.6)	1(1.1)
B病院	0(0)	10(6.9)	60(41.4)	73(50.3)	2(1.4)
合 計	14(6.0)	36(15.3)	86(36.8)	95(40.5)	3(1.3)

であった。（表1，2）

対象者の最終学歴は表3に示したように、短大・各種学校卒が46.2%と最も多く、次いで大学卒以上が28.2%、中学・高校卒が25.6%であった。また、夫の職業では、専門職・管理職が35.7%、事務職が28.5%、その他が35.7%であった（表4）。これらの対象者の背景にはA、B両病院間に有意差は認められなかった。

表3. 対象の背景－学歴

	中学・高校	短大・各種	大学・大学院
A病院	22(24.7)	42(47.2)	25(28.1)
B病院	38(26.2)	66(45.5)	41(28.3)
合 計	60(25.6)	108(46.2)	66(28.2)

表4. 対象の背景－夫の職業

	専門・管理職	事務職	その他
A病院	30(33.5)	26(29.2)	33(37.1)
B病院	54(37.0)	41(28.1)	51(34.9)
合 計	84(35.7)	67(28.5)	84(35.7)

本人の職業の有無では、現在は職業のない者が66.3%を占め、そのうち、結婚時に退職した者が35.7%であった（表5）。この点についてはA病院では職業のある者が47.4%であり、B病院では結婚時に退職した者が40.0%であり両病院間には有意差が認められた。

また、家族構成は核家族が83.8%であり、A、B

表 5. 対象の背景—職業の有無

	職業有り	結婚後退職	妊娠後退職
A 病院	36 (47.4)	22 (28.9)	18 (23.7)
B 病院	30 (25.0)	48 (40.4)	42 (35.0)
合 計	66 (33.7)	70 (35.7)	60 (30.6)

両病院間に有意差は認められなかった

表 6. 対象の背景—家族構成

	核 家 族	拡 大 家 族
A 病院	69 (78.4)	19 (21.6)
B 病院	128 (87.1)	19 (12.9)
合 計	197 (83.8)	38 (16.2)

2) 因子分析の結果

因子分析により、各項目間の相関を分析することで表 7 に示したような 9 因子が抽出された。9 因子の累積寄与率は 22.2% であった。なお、以下では各項目の因子負荷量が負の場合、表 7 に示した各項目の内容を逆にして説明している。

第 1 因子では、妊娠した感想、子供への関心についての項目で因子負荷量が高かった。すなわち「母親になることが嬉しい」「妊娠したことが嬉しい」「私は子供が好きである」が 0.66 以上の高い因子負荷量を示していた。また、「現在の自分に満足している」「いつもおなかに子供がいることを意識している」「この妊娠は予定していたものである」が因子負荷量 0.28 以上を示していた。

第 2 因子では、分娩を迎える感想に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち、「お産が怖い」「お産について不安がある」が 0.78 以上の因子負荷量をもっていた。さらに「お産の時、取り乱すのではないと思う」「私はうまくお産ができないと思う」が因子負荷量 0.47 以上であり、「この妊娠は予定したものではない」が因子負荷量 0.30 以上の項目であった。

第 3 因子では、夫への期待、要望に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「夫からきれいだといわれたい」「夫は私の髪型や服装に関心を示してほしい」が因子負荷量 0.67 以上であった。さらに

因子負荷量 0.30 以上の項目として「皆からチャホヤされるのが好きである」「妊娠・分娩に関する知識がある」「夫が私の気持ちを理解してほしい」「私はうまくお産ができると思う」があった。

第 4 因子では、夫の反応に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「夫は妊娠に関心を示してくれる」「夫は妊娠を喜んでくれている」が因子負荷量 0.72 以上の項目であった。そして、「夫は子供が好きである」「夫が育児の相談相手になってくれる」「夫は妊娠してから家事をしてくれる」が因子負荷量 0.30 以上であった。

第 5 因子では、本人の性格に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち、あきっぱい性格、わがままな性格が 0.69 以上の高い因子負荷量を示していた。さらに「私は忍耐強くない」「皆にチャホヤされるのが好き」が因子負荷量 0.51 以上であり、「他人の意見に左右されやすい」が因子負荷量 0.30 以上であった。

第 6 因子も本人の性格に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「危険や困難に出会うと尻込みする」「友だちに比べると怖いもの知らずの方ではない」「他人の意見に左右されやすい」で 0.63 以上の高い因子負荷量を示した。その他に因子負荷量 0.33 以上の項目は「結婚前に母親の家事を手伝わなかった」「私は忍耐強くない」があった。

第 7 因子は友人に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「妊娠・分娩に関する悩みを相談する友人がいる」「現在、気楽に相談にのる友人がいる」が 0.79 以上の高い因子負荷量を示している。さらに「夫は妊娠してから家事を手伝ってくれる」が 0.31 以上の因子負荷量を示した。

第 8 因子は、女性であることの喜び、現在の自分への満足などに関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「女に生まれてよかった」「夫を生きるはりあいとしたい」「夫の身のまわりの世話が楽しい」が 0.55 以上の高い因子負荷量を示した。また、因子負荷量 0.36 以上の項目は「胎児に良いといわれることをしている」「現在の自分に満足している」であった。

第 9 因子では、胎児に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち「赤ちゃん用品を自分で用意している」が因子負荷量 0.74 という高い値を示してい

表 7. 因子負荷量一覧表

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	第 6 因子	第 7 因子	第 8 因子	第 9 因子
母親になることが嬉しい	0.7563	-0.0339	0.1058	0.0790	-0.1477	-0.0107	0.2137	0.1543	0.1205
妊娠したことが嬉しい	0.7273	-0.0421	0.1452	0.1077	-0.1434	0.0592	0.1691	0.1259	0.1924
私は子供が好きである	0.6625	0.0505	-0.1287	0.0509	-0.0469	-0.0531	0.0295	0.0597	0.0082
現在の自分に満足している	0.2966	-0.0942	0.1380	0.1096	-0.1273	-0.1782	0.1236	0.3606	-0.1447
胎児の存在を常に意識している	0.2900	0.1733	-0.0682	0.0590	-0.1340	0.0522	0.1306	-0.1084	0.3806
予定していた妊娠である	0.2895	-0.3133	0.4432	0.0928	-0.1262	0.1518	0.0593	-0.0780	0.0290
お産が怖いと思う	-0.0451	0.7976	0.1084	-0.0060	0.0728	0.1515	0.0123	-0.0609	-0.0451
お産について不安がある	0.0558	0.7806	0.0545	-0.0035	0.1137	0.1067	0.0761	0.0367	-0.0718
お産の時とり乱すと思う	0.0479	0.5601	-0.0866	0.1933	0.2502	0.0986	-0.1499	-0.0681	0.1055
私はうまくお産ができると思う	0.1980	-0.4709	0.3019	-0.1195	0.1050	-0.1441	-0.0846	0.0794	0.3374
夫からきれいだといわれたい	-0.0078	-0.0028	0.7561	0.0419	0.0852	0.0205	0.0055	-0.0145	0.0771
夫が私の髪型や服装に関心を示してほしい	0.0746	0.1759	0.6704	0.0582	-0.0000	-0.0771	0.0487	0.1895	0.0168
ちやほやされるのが好き	-0.1013	0.1472	0.4644	-0.0440	0.5160	0.0396	0.0092	0.0517	0.0273
妊娠分娩の知識がある	0.0772	-0.1697	0.4492	-0.0374	-0.1518	0.0638	0.1724	0.0907	0.1268
私はお母さん子であった	-0.1428	0.0928	0.3561	-0.0135	0.0277	0.1056	0.0437	0.0605	-0.0289
夫が私の気持を理解して欲しい	0.0053	-0.0827	0.3201	0.1088	-0.0072	-0.0469	0.0098	0.0941	0.0123
夫は妊娠に関心を示している	-0.0105	0.0184	0.0500	0.7452	-0.0635	0.0240	0.2233	0.0236	-0.0242
夫は妊娠を喜んでくれている	-0.1401	-0.0264	0.0512	0.7289	-0.0826	0.0794	-0.0847	-0.0655	0.0033
夫は子供が好きである	0.1733	0.1318	-0.0824	0.5893	0.0182	-0.0747	-0.1597	0.2664	-0.0065
夫は育児の相談相手である	-0.1309	0.1215	0.0410	0.4778	-0.1606	-0.1031	0.2527	0.2439	0.0103
夫は心の支えになっている	0.1172	-0.0765	0.0936	0.4214	0.1550	0.0130	0.2210	0.0834	0.0439
夫は妊娠してから家事を手伝う	-0.1034	0.1924	0.1572	0.3062	-0.1058	-0.0210	0.3145	-0.0676	-0.2447
私はあきっぽい性格である	-0.1619	0.0631	-0.1183	-0.0819	0.7130	0.2785	0.1528	-0.0560	-0.1071
私は我がままな性格である	-0.0449	0.0803	0.0669	-0.0436	0.6904	-0.0823	-0.0100	-0.0347	0.0173
私は忍耐強い性格である	0.2377	-0.1693	0.0166	0.0375	-0.5172	-0.3341	0.0064	0.1032	-0.0658
私は他人の意見に左右され易い	0.1453	0.1286	-0.0069	0.0380	0.3033	0.6333	-0.0022	0.0565	-0.1301
危険や困難に尻ごみする	-0.0400	0.0861	0.0701	0.0401	0.1941	0.7372	0.0054	0.1233	-0.0509
怖いもの知らずである	0.0702	-0.1613	0.0264	0.0361	0.2913	-0.6909	0.0009	0.0208	-0.0973
結婚前に家事を良く手伝った	-0.0743	-0.1796	0.0370	0.0636	-0.2085	-0.3909	0.1359	0.1821	0.0677
妊娠分娩の悩みを相談する友人がいる	0.1266	-0.0582	0.0624	0.0211	0.1027	-0.0107	0.8560	0.0405	0.0155
気楽に相談できる友人がいる	0.2051	0.1009	0.0299	0.0970	0.0114	0.0073	0.7967	0.1054	0.1129
女に生まれて良かったと思う	0.1747	-0.0923	0.1108	0.0698	-0.0345	0.1332	-0.0189	0.6805	-0.0786
夫を生きるはりあいになりたい	0.1070	0.0583	0.0260	-0.0541	-0.0409	0.1674	0.0608	0.6188	0.0636
夫の身の回りの世話が楽しい	-0.0406	-0.0347	0.0830	0.1851	-0.0417	-0.1351	0.1873	0.5511	0.2336
胎児に良いと言われていることをしている	0.0870	-0.0830	0.0183	0.2265	-0.0322	-0.1251	0.1567	0.3695	0.3843
赤ちゃん用品を自分で用意した	0.0224	-0.0597	0.0888	-0.0797	-0.0497	0.0562	0.1122	-0.0298	0.7437
医師から異常があるといわれた	-0.1504	0.0553	-0.0846	-0.0345	-0.0878	0.1992	0.1356	-0.0587	-0.5694
胎児の害になる行動を控えた	0.0483	-0.0140	-0.0413	0.0251	-0.1156	0.2071	0.1610	0.1465	0.4311

た。さらに「医師から異常がないと言われている」「胎児に良いといわれることをしている」「いつもおなかに子供がいることを意識している」「私はうまくお産ができると思う」が因子負荷量0.33以上であった。

3) 分散分析の結果

因子分析によって抽出された9因子の因子得点について、対象特性別の差を検討するために分散分析を行なった。その結果、学歴別では第3因子と第8因子に、本人の職業の有無では第6因子と第9因子に、夫の職業別では第1因子と第3因子に有意差が認められた。

図1, 2に示したように、学歴を、中学・高校卒、短大・各種学校卒、大学・大学院卒の3群別に各因子得点の平均値を比較した。第3因子では、学歴の上昇に伴って各因子得点の平均値が上昇するが、第8因子では、学歴の上昇に伴って各因子得点の平均値が下降していることが認められた。

図1. 第3因子と学歴(妊娠期)

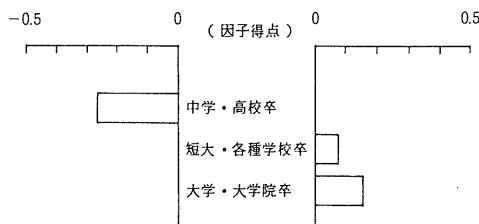


図2. 第8因子と学歴(妊娠期)

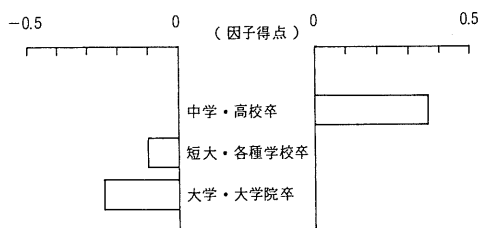


図3, 4に示したように、本人の職業の有無を、職業有り、結婚時に退職、妊娠して退職の3群別に各因子得点の平均値を比較した。第6因子では、職業有りの因子得点が最も低く、次いで、結婚時に退職、妊娠して退職の順に各因子得点の平均値が上昇していた。第9因子では、職業有りが最も低く、次いで妊娠して退職、結婚時に退職の順に各因子得点

図3. 第6因子と本人の職業の有無(妊娠期)

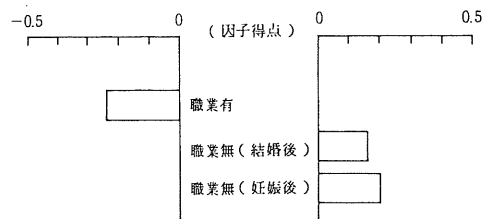
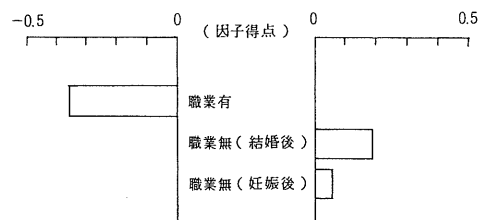


図4. 第9因子と本人の職業の有無(妊娠期)



の平均値が上昇していた。

図5, 6に示したように、夫の職業を、専門職・管理職、事務職、その他の3群に分類し、その各群について各因子得点の平均値を比較した。第1因子、第3因子ともに、事務職が最も低く、専門職・管理職の因子得点の平均値が最も高かった。

図5. 第1因子と夫の職業(妊娠期)

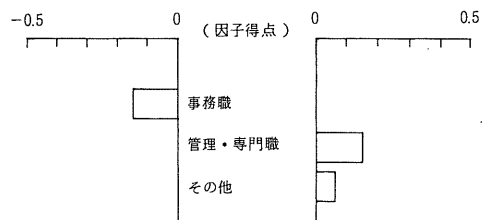
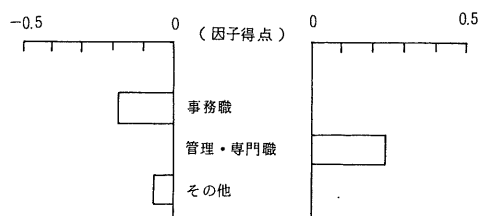


図6. 第3因子と夫の職業(妊娠期)



V 考 案

初産の妊婦の母性意識に関与する因子に関するアンケート調査結果について因子分析を行ない9因子を抽出した。この結果について、1) 各因子の意味、2) 対象特性による各因子得点の差について、3) 各因子と母性意識の関係について考案を加える。

1) 各因子の意味

第1因子では母親になること、妊娠したこと喜び、子供に関する項目で因子負荷量が高かった。これらの項目が示す内容は、母親となることに喜びを感じ、妊娠したことが嬉しいというものであり、これは妊娠の受容がされていることを示すものである。また、現在の自分に満足しており、今回の妊娠は予定していたものであるということも含まれている。上田⁸⁾によれば、妊娠を受容している人の特徴として「計画的な妊娠であり、結婚生活に満足度が高い」ということがあげられており、その内容は上記の第1因子の内容と一致している。したがって、第1因子は妊娠の受容因子と考えられる。

第2因子では、分娩に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、分娩に対する漠然とした不安や恐怖と、良いお産ができないのではないかとという不安であり、分娩に関して否定的な内容である。しかも、その妊娠は予定したものではないという項目も含まれていた。これらのことから第2因子は分娩に対する不安因子と考えられる。

第3因子では、夫への期待、要望に関する項目で因子負荷量が高かった。すなわち、夫が自分の服装や髪型に関心を示し、きれいだと言われたい。夫に自分の気持ちを理解してほしい、皆にチャホヤされるのが好きなお母さん子であるというものであった。しかし一方では、妊娠や分娩についての知識があり、お産はうまくできるという自信があるという項目も含まれることから、妊娠や分娩の知識があり、お産に対する自信があるとともに、夫への愛着(アタッチメント)が強いという妊婦像が考えられる。すなわち第3因子は夫への愛着因子といえるだろう。

第4因子は、夫の妊娠についての関心や支援に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、夫は妊娠に関心を示し、それを喜んでおり、相談相手や支えとなってくれるだけでなく、家事を手伝うという実際の支援を行なっているというものである。

したがって、第4因子は夫の支援因子と考えられる。

第5因子は、本人の性格に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、あきっぱく、わがままで、自己顕示的で他人の意見に左右されやすいという非主体的なものである。すなわち第5因子は未熟な性格因子と考えられる。

第6因子も本人の性格に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、危険や困難に出会うと尻込みをし、怖いもの知らずの方ではなく、他人の意見に左右されやすいという憶病で非主体的なものである。すなわち、第6因子は憶病な性格因子と考えられる。

第7因子は友人に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、妊娠、分娩に関する悩みを相談する友人や、気楽に相談にのる友人がいる、夫が家事を手伝うというものである。すなわち、第7因子は友人による支援因子と考えられる。

第8因子は、女性であることの喜び、夫の世話に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、女に生まれてよかったと思ひ、夫を生きるはりあとし、夫の身のまわりの世話が楽しいというものである。これは「女性であることを認め、伝統的に女性の役割とされている、結婚して家事、育児に専念することを積極的に受けとめていること」すなわち、伝統的な女性役割を受容していることを示すものと考えられる。このことから第8因子は、伝統的な女性役割の受容因子と考えられる。

第9因子は胎児に関する項目で因子負荷量が高かった。その内容は、妊娠過程に問題はなく、赤ちゃん用品を自分で用意しており、胎児を常に意識して、胎児に害になる行動を控え、良いといわれる行動を行なっているというものである。このことから、母親としての自分に否定的な気持ちを持たず、子供のための世話の準備をしている。すなわち母性行動を実践していると考えられる。そこで、第9因子は母性行動因子とされよう。

2) 対象特性による各因子得点の差について

① 本人の学歴と因子の関係

第3因子、すなわち夫への愛着因子の因子得点は学歴の高い妊婦ほど高い。このことは、第3因子の内容から、学歴の高い妊婦ほど、妊娠、分娩に対する知識を多く学び、分娩への自信は持っているが、

妊娠中の自分自身の心身の変化に対して、女性として本能的に受け入れていく感情の部分、感情として受けとめるのではなく、頭で考えこんでしまうために混乱し、夫の支援を強く望んでいるのではないと思われる。

第8因子、すなわち伝統的な女性役割の受容因子の因子得点は、学歴の高い妊婦ほど低い。このことは、学歴の高い女性ほど専門性を身につけている可能性が高く、伝統的な女性役割以外の役割に価値を見出すことが多いために、家事、育児への関心や満足度が少ないと解釈できよう。

② 本人の職業の有無と因子の関係

第6因子、すなわち憶病な性格因子の因子得点は、職業を持っている人に最も低く、妊娠してから退職した人に最も高かった。これは、憶病な性格であるために、結婚や妊娠という新しい環境の中で仕事を続ける自信がなくて仕事を離れたためという解釈もできる。一方、職業を持っている人は、自分自身に対する自信が、職場の中で培われ、憶病な性格を克服していったためとも考えられる。

第9因子、すなわち母性行動因子は、職業を持っている人が最も低く、結婚して退職した人が最も高かった。これは職業の有る人は、仕事のために時間的な余裕がなく、子供のための準備を自分自身で行なえないことによるのではないと思われる。つまり、職業を持っている人は、仕事の方を母性行動よりも優先させていることがうかがわれる。

③ 夫の職業と因子の関係

第1因子、すなわち妊娠の受容因子は夫が専門職・管理職である妊婦で因子負荷量が最も高かった。すなわち、夫が専門職・管理職で仕事に専念している場合、予定していた妊娠においては、妻も妊娠している現在の生活に満足し、その生活に没頭することができるためではないかと考えられる。

第3因子、すなわち夫への愛着因子も、夫が専門職・管理職の妊婦が因子負荷量が最も高かった。このことは、夫が仕事優先の日常生活のために妊婦自身への関心が低く、夫が妻の愛着に答えられないためと思われる。

3) 各因子と母性意識の関係について

母性意識は、平井⁹⁾が述べているように、母親の幼少時からの生育過程において家族との暖かな関係

のもとで育つことによって形成され、上田¹⁰⁾が指摘しているように、妊娠、出産の経験によってさらに発展されるものである。これらのことを参考にして、因子分析により抽出された9因子を母性意識という点から検討しよう。

第1, 3, 4, 7, 8, 9因子は母性意識に肯定的に関与する因子と考えられる。すでに考察したように、第1因子は妊娠の受容因子である。妊娠したことを喜ばしいと感じ、母親となることを嬉しいと思うことは、すなわち、母親となることへの心理的準備がなされていることであり、母性意識そのものを示す因子と考えられる。

第3因子は夫への愛着因子である。夫からの関心を求めることそれ自体は母性意識に肯定的、否定的どちらともいいがたい。しかし、この調査においては、分娩に対する知識があり自信を持っているという内容があり、夫婦の信頼関係の基盤の上で妊娠の受容がされていると考えられるので、母性意識に肯定的に影響するものと考えられる。

第4因子は夫の支援因子、第7因子は友人の支援因子である。これらは現在の生活の上で、家族や身近な人々からの支援を得て、暖かな関係が築かれているか否かを示すものであると考えられる。したがって、これらの因子は母性意識の形成に肯定的に影響するものと考えられる。

第8因子は伝統的な女性役割の受容因子である。これは女性の役割としての家事、育児を肯定しているか否かを示すものであり、伝統的な女性役割の中に含まれる母親役割の受容を示すものと考えられる。したがって、母性意識に肯定的に影響するものと考えられる。

第9因子は母性行動因子である。すなわち、胎児に対して、わずらわしいなどの否定的な感情を持たず、すでに母親としての特殊な関心を持ち、胎児の健康の維持、増進に貢献する行動を示す因子である。その行動の基盤として、すでに母性意識が芽生えていると考えられるので、この因子も母性意識に肯定的に影響を与えるものと考えられよう。

ドイッチュは、分娩を¹¹⁾「自我の一部との苦痛な別離であり、破壊的な精神喪失を招きかねない」と述べ、そして、分娩の恐怖は「¹²⁾母の体内で目ざめつつある新たな生命にともなう死への、根深い、遺

伝的恐怖であり、その主なものが、子供と自己との分離の恐怖であると述べている。さらに、多くの女性は、妊娠中に胎児を客観視し、外界における愛情の対象物としての子供を得るために、恐怖や苦勞を喜んで犠牲にしたいと思うが、客観視のできない女性は、この分離の恐怖を強く持ち続けると述べている。このことから、第2因子、すなわち分娩に対する不安因子は母性意識に否定的に影響するものと考えられる。

第5因子は未熟な性格因子、第6因子は憶病な性格因子である。ドイッチュ¹³⁾によれば、母性としての愛他心は子供のために完全に自己を滅却し、自分の生命も含めて何もかも喜んで犠牲にするという事実にもとづいていと述べている。未熟な性格であると自己犠牲の余裕がなく、母性意識の形成には否定的に影響する。また、憶病な性格の者は、産後の環境、現実生活の変化、ならびに育児の困難に直面することを避け、新たな母親の役割に適應する余裕がないものと考えられる。以上のことから、第5因子、第6因子は母性意識に否定的に影響する因子と考えられる。

調査に御協力下さいました妊婦の皆様、ならびに調査票の配布や回収に御協力下さいました東海大学病院、聖路加国際病院の産科病棟、外来の看護職員の皆様に感謝いたします。

VI 引用文献

- 1) 松岡恵他：成熟期未婚女性の母性意識に関与する因子—私立看大生へのアンケート調査の多変量解析—母性衛生，24(3,4合併号)：221，1983.
- 2) 新道幸恵他：産褥早期の褥婦の母性意識に関与する因子について，母性衛生，26(2)：208，1985.
- 3) 上田礼子他：妊娠・出産・産褥期の適応行動(1)妊娠の受容，母性衛生，22(1)：94，1981.
- 4) 横尾京子：産褥期の母子関係—Maternity について—，助産婦雑誌，32(9)：568，1978.
- 5) 花沢成一：母性行動の成立，助産婦雑誌，35(9)：649，1981.
- 6) Mill, J. S (大内兵衛，大内節子訳)：女性の解放，110，岩波書店，東京，1984. 第26刷。
- 7) Mead, M. (田中寿美子，加藤秀俊訳)：男性と女性下，144，創元新社，昭和44年，第9版。
- 8) 上田礼子他：同上；95.
- 9) 平井信義編：母性愛の研究，56，同文書院，昭和56年，初版。
- 10) 上田礼子：母性意識の確立，周産期医学，11(9)：1245，1981.
- 11) Deutsch, H. (懸田克躬 原百代訳)：母親の心理2，生命の誕生，44，日本教文社，昭和39年，初版。
- 12) Deutsch, H.：同上；132.
- 13) Deutsch, H.：同上；200～206.

VII 参考文献

- 1) 柳井晴夫，高根芳雄：多変量解析法，101～128，朝倉書店，昭和56年，初版。
- 2) 高木廣文：ナースのための統計学，医学書院，昭和59年，初版。
- 3) 大日向雅美：母親の子どもに対する愛着—夫に対する愛着との関連性について—，母性衛生，23(2)，8～15，1982.
- 4) NIE, N. H. : et al ; Statistical Package for the Social Sciences ; McGraw-Hill, Inc., 1975, Second edit.